

「新聞マルシェ」開設で除幕式 記念の震災シンポ 地域連携で茨城新聞と茨大

「伝え続ける！茨城／4年目を迎えた震災」をテーマに「新聞マルシェ」のシンポジウムが17日午後、茨城大学図書館2階の新聞・雑誌の閲覧コーナーで開催された。

これに先立ち、茨城新聞から提供された東北・沖縄地方を中心とする、地方紙10紙を閲覧する配架スペース「新聞マルシェ」の除幕式が小田部卓茨城新聞社長と三村信男茨大学長により執り行われた。

式典は、村上ゼミの2年生、江連里恵、古賀ゼミの2年生の高根沙紀が司会を務めるなど人文学部メディア文化コースの両ゼミ員らの全面協力により、挙行された。



冒頭、小田部社長が「各地域が課題を抱えており、住民がそれに向き合っている中で、全国紙と地方紙のどこが違うのかを学んでいただきたい」とあいさつ、これに対し三村学長は、「他の国立大にはない初の試みとして本学の財産になる。地方の魅力を学ぶ機会にしたい」と応えた。

午後3時から、茨城新聞から井坂幸雄編集局長、石井穂取締役、茨城大人文学部出身の女性記者、

平野有紀さんをパネラーにシンポジウムを開催。当時、どんな取材にかかわったか、これまでの震災取材を振り返っての課題などで討議した。

当時東京支社長だった石井取締役は、混乱の中で、新聞発行で重要な位置を占める広告の確保に苦勞したことなどを披露。県会議を取材中だった平野記者は、揺れが収まった直後からカメラを片手に周辺を歩き回り、深夜まで写真



撮影や記事執筆に集中した1日を振り返った。

井坂局長は、「被災者、原発事故、風評被害など様々なテーマに向き合って取材し続けてきた。日本原電の東海2号機の今後、廃炉などの課題があり、引き続き読者に有益な情報を提供したい」と締めくくった。

除幕式・シンポには、教職員、学生など約50人が参加した。式典とシンポの会場設営は、村上ゼミと古賀ゼミの2年、3年生らが担当、演出は、村上ゼミ2年の川口香澄が務めた。閲覧できるのは、茨城新聞を筆頭に、東奥日報、河北新報、福島民友、福島民報、下野新聞、上毛新聞、沖縄タイムズ、琉球新報など。



(終)

